

**ESRI統計より：景気統計**  
**消費者マインド**  
**アンケート調査について**  
 「誰でも」「どこでも」「自由に」  
 回答できる調査に向けた試み—  
 経済社会総合研究所景気統計部  
**塚田 すす菜**

### 1. はじめに

経済社会総合研究所景気統計部では、消費者マインドを把握するための調査として、「消費動向調査」を実施している。日本全国の中から調査地点を決め、その地点から抽出した世帯に対して調査員が訪問をし、調査を依頼しているが、共働き世帯の増加やオートロックマンションの増加等により、面会できない世帯が増えている。そのため、現行の調査方法では調査協力いただけないような世帯も含め、「誰でも」「どこでも」「自由に」回答できる消費者マインドアンケート調査<sup>1</sup>（以下、アンケート調査）を、平成28年9月より、内閣府のHP上で試行的に実施した。本稿では、アンケート調査開始以降、一定期間のデータが蓄積されたことから、回答者の属性や調査結果を紹介したい。

アンケート調査は、現在実施している「消費動向調査」の質問項目のうち、主要なものである「今後半年間の暮らし向きについて」と「1年後の物価の見通し」の2つに加え、回答者の属性を把握するため、性別、年齢区分（10歳刻み）、職業、同居者、居住地（都道府県）についての質問を設けており、親しみをもって調査に協力いただけるよう、HP上のバナーや図を工夫した。また、毎月、継続的に調査に御協力いただけるよう、毎月の調査結果も公表している。（図表1）。

図表1 HP上の図、バナー



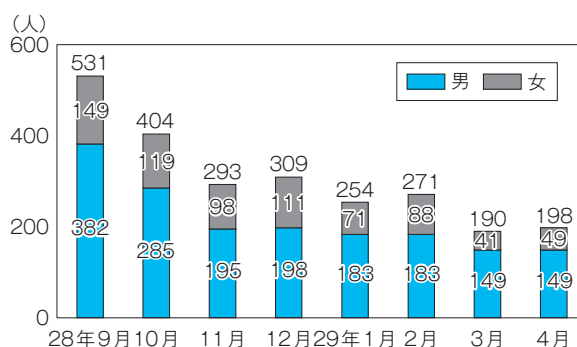
### 2. 回答者について

回答者数<sup>2</sup>は、平成28年9月は531人であったが、以降、減少傾向にあり、平成29年3月、4月は、190人台となっている（図表2）。

毎月の回答者について、性別をみると、男性からの回答が半数以上を占め（図表2）、年代別では、30代からの回答が約2割、40代及び50代からの回答が、約3割を占めている（図表3）。

消費動向調査では、高齢者世帯にやや偏りつつあるが、アンケート調査では、30代～50代の男性からの回答が多いことがわかる。

図表2 回答者数



図表3 年代別の回答割合

年月	～20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代 (%)	60代～ (%)
28年9月	12.4	19.8	29.6	25.0	13.2
10月	21.5	18.3	24.5	23.3	12.4
11月	16.4	15.7	25.3	28.3	14.3
12月	18.8	18.8	27.2	23.9	11.3
29年1月	12.6	15.4	27.6	29.5	15.0
2月	10.7	22.5	26.9	26.2	13.7
3月	8.9	16.8	28.9	28.9	16.3
4月	7.1	13.1	34.8	30.3	14.6

### 3. 回答結果について

質問項目のうち「今後半年間の暮らし向きについて」の回答割合を、アンケート調査と消費動向調査（二人以上の世帯、原数値）の結果と比較してみると、「やや悪くなる+悪くなる」の回答割合はおおむね同程度である一方、「良くなる+やや良くなる」はアンケート調査の方が高く、「変わらない」は消費動向調査の方が高くなっている（図表4）。

意識指標を算出して比較をしてみると、「良くなる+やや良くなる」等の回答割合が異なるため、アンケー

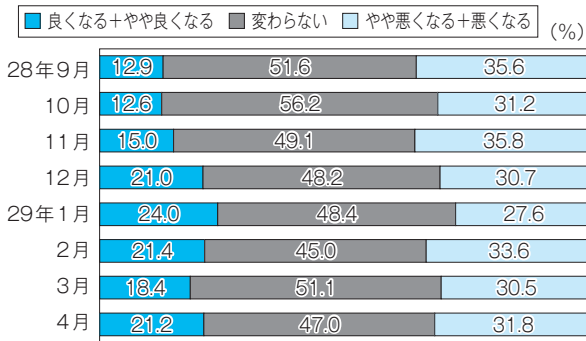
1 詳細は（[http://www.esri.cao.go.jp/stat/shouhi/open\\_chosa/open\\_chosa.html](http://www.esri.cao.go.jp/stat/shouhi/open_chosa/open_chosa.html)）を参照いただきたい。

2 29年1月分より、20日締めとしたことにより、28年12月と29年1月に重複データがある。

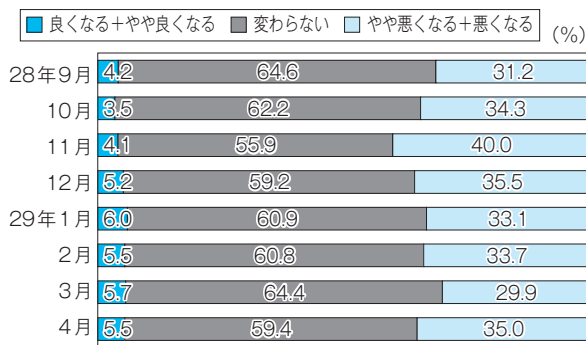
ト調査の方が水準は高いものの、おおむね同じ動きをしていることがわかる（図表5）。

次に、「1年後の物価の見通し」を比較すると、「上昇する」及び「変わらない」では、水準は異なるものの、おおむね同じ動きとなっている。「低下する」は、水準も近く、どちらも同じような動きで減少傾向がみられる（図表6）。

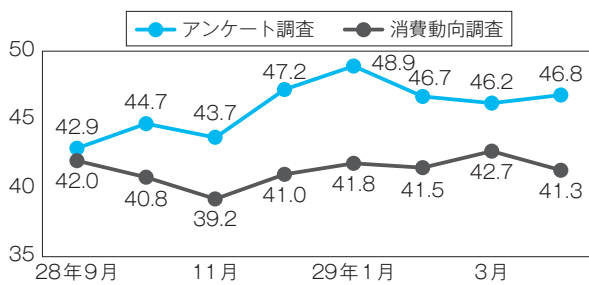
図表4 「暮らし向き」の回答割合（アンケート調査）



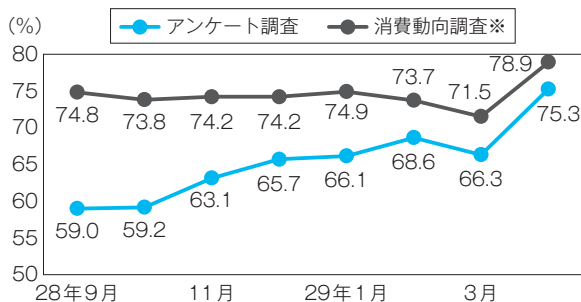
「暮らし向き」の回答割合（消費動向調査）



図表5 「暮らし向き」の意識指標の比較

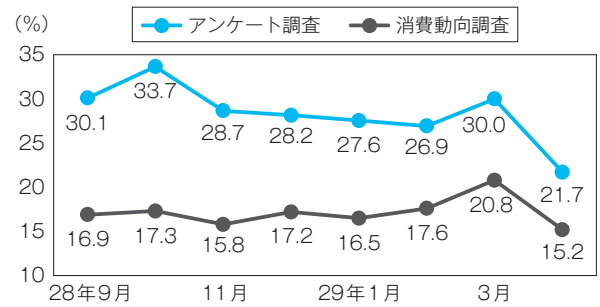


図表6 「物価の見通し」上昇する

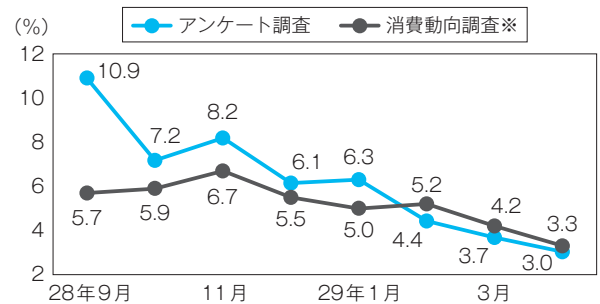


※「2%未満上昇する」「2%以上～5%未満上昇する」「5%以上上昇する」を足し合わせたもの。

「物価の見通し」変わらない



「物価の見通し」低下する



※「▲5%以上低下する」「▲5%未満～▲2%以上低下する」「▲2%未満低下する」を足し合わせたもの。

#### 4. 留意点

アンケート調査の回答者は、内閣府HPを日頃から御覧になっている方からの回答であることが想定されるため、消費動向調査のように、日本全国の縮図になるように統計的手法で設計されたサンプルではないことに留意する必要がある。また、サンプル数についても、直近では190人台まで減少しているため、消費動向調査ほど信頼性の高い結果ではないことにも併せて留意が必要である。

#### 5. おわりに

アンケート調査では、消費動向調査より比較的若い年代の回答を得られること、意識指数や物価の見通しについて水準は異なるものの、消費動向調査とおおむね同じ動きであるということが分かった。今後、信頼のある結果を継続して得るためには、より多くの方の協力が必要である。消費動向調査に参加できない世帯、統計調査に興味がある方など、誰でも手軽に統計調査に参加できるので、是非、たくさんの方に参加してほしいと考えている。その結果、アンケート調査が、更なる統計調査への理解や参画意識の高まりにつながることを期待したい。

塚田 すす菜（つかだ すずな）